第72回 知ろう、学ぼう

社会貢献活動

（J-POWERグループの各機関で行っている社会貢献活動を、J-POWER広報室が取材してご紹介していきます）

J-POWERグループ

地域との絆を強くする 世界遺産・熊野古道「大峯奥駈道」行仙宿への物資運搬活動

J-POWER橋本送電所

Jパワー橋本送電所では、平成14年から熊野古道のひとつである修験道「大峯奥駈道」にある行仙宿へ食料物資を運ぶ活動を年2回実施しています。「大峯奥駈道」は、ユネスコの世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』の一部として平成16年7月に登録されています。その修験道は、和歌山県の熊野三山（熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社）から奈良県の吉野山へ続く約170kmに及ぶ急峻な山岳道で、75ヵ所の靡という修行場があります。第18靡「笠捨山」と第19靡「行仙岳」の間に位置しているのが行仙宿で、普段から登山者や行者さん達に開放しており、宿泊などに利用されています。

その行仙宿は、平成2年6月に〝新宮山彦ぐるーぷ〟さんによって設置され、有志の方々が管理活動を行い、さらには南奥駈道の整備や山小屋の維持管理、清掃活動も精力的に行っています。Jパワー熊野幹線は大峯奥駈道と併走しており、その一部を保守通路として利用しています。行仙宿は、その保守通路上に位置しています。

季節外れの大寒波が襲来

運搬前日から降り続く雪の影響で実施が危ぶまれていましたが、開始に向けて天候が回復してきました。そこで、

背負い子にしっかりとくくりつけます

より良いものにしていくという向上心を常日頃から持ち続けたい

山の上で水や食料がとても貴重な物資であることは、日々の送電線の保守業務から実感していますので、この活動を通じて、行仙宿を利用される方のお役に立てていることをうれしく感じています。

私たちが保守している送電線は地域の方々の協力の上で、成り立っています。常日頃から自分たちのできることを考え地域に協力していくことで今後の設備を守っていく原動力になっていると思います。

諸先輩がつくり、守ってきた送電線と地域とのつながりを次の世代へと引き継いでいくこと、それと同時に、諸先輩がつくり上げてきたものを、より良いものにしていくことが大切だと考えています。

J-POWER 橋本送電所
石岡　伸晃

お互いに協力し合い 地域の貴重な世界遺産を大切にしていきたい

J-POWERさんには、定期的に行仙宿まで運搬する困難な作業を続けていただき大変感謝しています。踏破される登山者や行者さんにご使用いただくのですが、水場が枯れてしまうと、今回、運搬していただいた飲用水は、まさに「命の水」となる大変貴重な物資です。

私たちは、昭和49年から活動しており、大勢の皆さまに山を歩いて自然に親しんでいただきたいと考え、南奥駈道の整備や山小屋の維持管理をしています。これからもお互いに協力し合いながらこの地域を守っていきたいです。

新宮山彦ぐるーぷ
世話人代表
川島　功さん

予定通りに新宮山彦ぐるーぷの皆さんと運搬作業を実施できることになりましたが、熊野古道の保守路には雪がうっすらと積もっています。今日の運搬はいつにも増して、足元に最大限の注意をはらい、登山しなくてはなりません。当日の3月11日は、3月には珍しい大寒波が日本列島に襲来。凍えるような寒さの中での運搬となりました。

今回運搬するのは、飲用水24kg、缶パン8kgと木炭6kgとかなりの重量の物資です。それらを背負い子という道具を使って運ぶのですが、一人当たりの重量が約10kgにもなります。それらを背負いながら急峻な山を登るのは、肉体的に負担がかかります。約1時間、目の前に切り立つ山道をひたすら登っていくのです。送電所、新宮山彦ぐるーぷの皆さんは健脚揃い。急峻な熊野古道を黙々とハイペースで登って行きます。

雪がうっすら積もる道を足元に気をつけて、行仙宿を目指します

休憩を取りつつ行仙宿を目指す

最初の休憩を取るころには、体も温まってきて、寒さを忘れてしまうくらいになってきます。「休憩したくなる距離感でベンチを設置し、休憩ポイントをつくっています」と話すのは新宮山彦ぐるーぷの川島さんと沖﨑さん。それからさらに登っていくと見晴らしの良い尾根に出ました。快晴であれば、大台ヶ原山の山並みや池原ダム湖も眺望できるとのことでしたが、今日は霧がかかっていて、かすんで見えませんでした。

ようやく目的地の行仙宿の下に来ると、平成24年に植樹された荘川桜2世桜が元気に生育しており、私たちを出迎えてくれました。到着後、山頂付近の大峯奥駈道の稜線に出ると、雪混じりの北西の風が強く吹いていて、頬に当たると痛いくらいでした。また、行仙宿周辺の外気温度は零下4℃、行仙宿の中は0℃という真冬のような状況に温まってきた体も一気に寒くなってきました。そんな環境の中での大変な運搬作業ではありましたが、喜んでくださった川島さんと沖﨑さんの二人の笑顔がとても印象的でした。最後は再会を期して握手で見送っていただき、名残惜しく下山しました。

出発前に（左から石岡さん、大塚さん、鈴木さん、下川原所長、川島さん、沖﨑さん）

送電線は多くの地域の皆さまに支えられていることを常に思いこの活動を続けていきたい

送電線は鉄塔が手と手を結び、助け合いながら一つとなって電気を運んでいます。この長い送電線の保守運用には、地域の皆さまの御理解・御協力のもと支えられて成り立っています。

この熊野古道を常日頃から保守通路として使用しており、行者さん・登山者さんに少しでもお役に立ちたいと考え、この地域貢献活動を続けています。これからも、この熊野古道を地域の皆様と手と手を結び一緒になって守っていきたいと思っています。

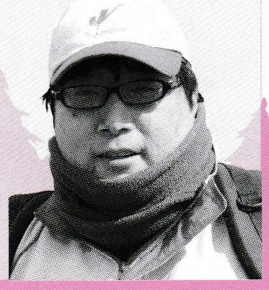
そして、行仙宿に移植した荘川桜２世桜が満開の花を咲かすのは先のことだと思います。いつしか後輩達が満開の桜を見て、この活動を続けてきた先輩を思い出し、この活動の意義を更に深く感じてくれる日が来るのを楽しみにしています。

J-POWER 橋本送電所長
下川原　秀幸

送電線を守る私たちだからこそできる活動を続けていきたい

行仙宿は修験者の中継基地でもありますが、突然の降雨や強風時の緊急避難所としての役割もあります。その時に暖を取り水分と栄養を摂る物資があれば、安全に過ごすことができると思います。わずかではありますが、お役に立てればうれしいですね。熊野古道の付近にある送電線を保守している送電職だからこそできる地域貢献活動がこの取り組みだと思っています。

社会が求めるエネルギーに応えていくことと同様に、地域のニーズに対してわれわれが何かお役に立てることがあるか考えています。そして、お互いのニーズや業務と両立、継続していけるように今後も取り組んでいきたいと思います。



J-POWER 橋本送電所
鈴木　信博